

World Touring Car Championship

10.30-31 JAPAN ROUND PREVIEW

CONTENTS

SPECIAL TALK

谷口信輝×柳田真孝

Interview

谷口行規

「ホームグラウンドらしい勝負ができるように」

10.31 WTCC岡山国際サーキット決戦!

PICK UP Driver

男達がサーキットで繰り広げる接近戦の格闘技—

2010年は欧州を主戦場にブラジル、モロッコ、日本と全11箇所、22ラウンドで行われている「FIA世界ツーリングカー選手権 (WTCC)」。最大の魅力は“サーキットの格闘技”と呼ばれるほどのマシンとマシンが激しくぶつかりあうバトル。接触が当たり前の非日常的、非常識的な戦いがサーキットで繰り広げられる。管轄しているのはFIA(国際自動車連盟)でF1、WRCと並ぶモータースポーツの頂点に位置している。初めて観戦する人にとってはレースに対するイメージが覆されるかもしれない。

テクニックよりも“気持ち”。隙間が無ければ自分でこじ開ける。油断すれば後ろから突かれ弾き出される。前後左右を囲まれてしまえば波に乗り続けるか、自分で壊すしかない。少しでも迷えば車ごと身も心もレースの外へと弾かれてしまう。弱気な男は最後まで走ることも不可能だ。

ドライバーの皮を被った狼達のガチンコバトル。元F1ドライバーや世界トップクラスのドライバーが狼に豹変してバトルを繰り広げる。一点突破を狙う狼たちの闘志剥き出しのバトルが10月30～31日、岡山国際サーキットに上陸。

熱さや興奮を味わいたければ岡山国際サーキットに行くしかない。WTCC日本ラウンドがいよいよ始まる。





WTCC 2010 Japan Round

SPECIAL TALK

谷口信輝 × 柳田真孝

WTCC日本ラウンドに2年連続2度目の参戦を果たす谷口信輝、記念すべき初参戦となる柳田真孝に決戦直前の心境を聞いた。対談は終始、穏やかに行われるも2人が時折見せる目は闘志に燃えていた。WTCCの魅力、注目ドライバーを2人の戦士が語ってくれた。

「WTCCは気持ちで負けないようにしないとのまれてしまう」谷口

—WTCC日本ラウンド参戦が決まりました。心境を教えてください。

谷口 「昨年がWTCC初参戦でしたが、僕の方でどこまで太刀打ちできるかブツけにきました。あいにくの雨で、世界のトップドライバー達を相手にすることなく終わってしまったので、昨年の不完全燃焼を今年はリベンジする気持ちで燃えています」

柳田 「3年前からWTCCは興味があったレースでしたので、参戦できることに感謝の気持ちでいっぱいです。久しぶりに海外ドライバーと世界選手権の中で戦えることに期待や、今の自分がどの辺にいるのかという楽しみが一番大きいですね。不安も少しありますが、基本的には凄く楽しみです、やってやるって気持ちが強いですね」

—WTCCの魅力を受けて頂けますか。

谷口 「レースというよりも、車の格闘技と言えるくらいの激しいレースですね。日本のレースだと技術は凄いです、どちらか

というとレースがクリーンなんです。軽いタッチはありますが、激しくブツかったりはしない。でもWTCCは、軽いタッチがず〜とで、激しいタッチも多数あり、ほとんど車と車が引付いた状態で走っている感じです。観る人には最高のレースだと思いますよ。やる方は、かなり気持ちで負けないようにしないと、すぐにのまれてしまいます」

—走るマシンは市販車をベースにしていますよね？

谷口 「そうですね。車は皆さんがよく目にしているBMWとか、改造している感じも日本のGTは完全に『レーシングカー！』みたいになっていますが、WTCCの見た目はノーマルな感じです。さほど車が速いわけではないのですが、その分ドライバーの技術は高いし、イカレポンチばっか(笑)。もう車間距離が前後左右、ぐちゃぐちゃですよ」

柳田 「僕そこに出るのかと思うとゾッとしますよ(笑)。僕まともなので」

—初参戦となる柳田さんのWTCCのイメージは？

柳田 「基本的にレーシングドライバーは負けず嫌いばかりだけど、度を越えた人が

WTCCに出ているっていうイメージがありますね。僕も映像でしか見たことはないですが、レースの内容は常に接近戦で、どこかで争ってるイメージですね。それと岡山に是非、来てほしいのは他のサーキットと比べるとコースサイドから観客席が比較的近いので、バトルを自分の目前、至近距離で見られるっていうのは、なかなかありませんので、生で観てもらいたいですね」

—憧れや尊敬しているドライバーや人物はいますか？

柳田 「僕は人として父親が大好きなので、尊敬する人は父親なのですが、レーサーとしての父親については色々な人から話を聞いているだけです」

谷口 「レース界では年長組に入っているの、僕が憧れている人は、あまりいないですね。ただ、ドリフト出身ということで、無い道を開拓してきた土屋圭市さんが僕の中では偉大な人だと思っています。WTCCではアンディ・プリオールですね。僕の中でのレーサー像の鏡みたいな人になって。ファンサービスもしっかりやりますし、色々なドライバーに好かれていて、アホかっていうようなブチ切れた走りもするし、成績も残すし。車を降りれば優等生、乗ってる時はとってもアグレッシブで格好良い走りをするから俺の中でプリオールは格好良いなって思います」

—ちなみにWTCCでこの人の走りに注目すると良いて人はいますか？

谷口 「日本ラウンドで言えば谷口信輝ですね(笑)。今回の日本ラウンドには谷口が2人参戦しますからね。谷口ツインズで応援してもらえればと」

柳田 「元F1ドライバーのティアゴ・モンテイロですね。欧州で彼は上のクラスで、スター選手的な感じでした。彼女も可愛いし(笑)。10代だった僕は憧れの目で見ていた感じですね。そういう憧れを持ったドライバーと走れるのが今回は楽しみです」

谷口 「イヴァン・ミュラー。あの人も捨てがたいですね、いつも1位2位で」

—最後に、Spopreの読者に向けてメッセージをお願いします。

谷口 「今年で2度目のチャレンジですが、昨年のうっ憤が相当たまっていますので、空回りしないように頑張ります。とにかく今年は結果に繋がたいですね。日本のファンの皆さんや今回チャンスを頂いている横浜ゴムさんに結果で恩返しをしたいと思っています」

柳田 「僕は当たって砕けるの気持ちでいきたいなと思っています。本当に砕けるとは思うのですが(笑)。精一杯、自分の力を出し切れるように頑張っていきたいと思っています。生で観るのが一番だと思いますので、ぜひ会場に足を運んでいただきたいと思っています」

「ドライバーは負けず嫌いばかりだけど、WTCCは度を越えた人が多い」柳田



谷口 信輝 Nobuteru Taniguchi

1971年5月18日生まれ 広島県出身 身長:184cm/体重:66kg

所属:M7 RE雨宮レーシング(SUPER GT)

19歳時にバイクレースのチャンピオンシップでシリーズ王者を掴むとバイクから車に乗り替えて、上京までドリフト中心の走り屋となる。2001年D1 GRAND PRIXでシリーズ王者になるとレーシングドライバーとして本格的に活動開始。30歳という遅咲きながらも02年に全日本GT選手権(現SUPER GT)第4戦で初優勝を果たし、スーパー耐久シリーズ5度の優勝で初のシリーズ王者に。スーパー耐久シリーズでは05年クラス1シリーズ王者。08、09年ST1クラスシリーズ王者となる。06年以降は毎年SUPER GTに参戦し、優勝などの結果を残して活躍する。今季はSUPER GT、スーパー耐久シリーズに参戦中。

Nobuteru Taniguchi

柳田 真孝 Masataka Yanagida

1979年6月4日生まれ 東京都出身 身長174cm/体重63kg

所属:HASEMI MOTOR SPORT(SUPER GT)

元レーシングドライバーの柳田春人を父に持ち、幼少の頃からカートを始め。1996年に全日本カート選手権出場。97年ELF(現Total)のスカラシップ獲得で2年間渡仏。フランス・フォーミュラ・キャンパスで開幕戦優勝を果たす。99年に帰国。2001年には全日本F3選手権、全日本GT選手権(現SUPER GT)に参戦し、全日本GT選手権GT300のマレーシア大会で優勝を飾り、シリーズ4位に。03年に全日本GT選手権GT300で初の王者に輝く。05年SUPER GT参戦開始。06年Fニッポン参戦を経て、09年SUPER GT GT300第6戦で初優勝。スーパー耐久シリーズ1クラスの王者獲得。今季はスーパー耐久シリーズとSUPER GTに参戦中。

Masataka Yanagida

WTCC 2010 Japan Round INTERVIEW 谷口行規



「ホームグラウンドらしい勝負ができるように」

2年ぶり2度目となるWTCC日本ラウンドにシボレー・ラセッティで参戦を果たす谷口行規。
2008年のオッサヤズレーベン(ドイツ)、岡山以来の参戦となる谷口行規に日本ラウンド直前の心境を聞いた。

2年ぶり2度目の WTCC日本ラウンド参戦

—今回2年ぶり2度目となる日本ラウンドへの参戦が決まりましたが、今の心境をお聞かせ下さい。

「(WTCC参戦は)一昨年は少し様子も分からず、ドタバタしてる間に終わっちゃった感じはあって、今回はしっかり自分らしいレースができれば良いなと思っています」
—レース活動をされるようになったのは何故ですか？

「お〜っと、それはちょっと長い話になるなあ」

—全然良いですよ。お願いします。
「元々は山田英二さんの運転の助手席に乗るチャンスがあって、そこでこんな運転ができるようになりたいと思ったのがきっかけなんですけども、やっぱり限界の領域を超えたところをコントロールする楽しさっていうところに強く惹かれて、レースをやるところまできましたね」

—スーパー耐久(以下、S耐)、シビックワンメイクレース等の様々なカテゴリーに参戦経験がありますが、これまでに印象に残ってるレースや出来事がありますか？

「S耐はチームのおかげでたくさん勝たせてもらい、凄く良い経験になりました。毎回毎回、結構全力を出して走っているんで毎回1つ前のレースが一番印象に残っていますけど、次はもうちょっと、次はもうちょっとっていう感じで少しずつ良

い走りができるようになれば良いかなと思います」

WTCCの魅力はペースが落ちない 状況でのフェアな領域でのバトル

—WTCC(世界ツーリングカー選手権)の魅力について教えてください。

「やっぱり、車同士のコンタクトというか、フェアな領域で車が接触したりしながらも、それでも突然ペースが落ちたりとかもせず、バトルをしていてもペースがあまり下がっていないところが一番凄いとこだと思います。やっぱりスタート直後の第1コーナーに関しては、もうみんな一か八か行ってる感があって、それがやっぱり見る人に伝わるのがいいんじゃないですかね」

—小さい頃に憧れていた人はいますか？

「小さい頃は、発明など変わったものを考えたりするのが好きで、レオナルド・ダ・ビンチや平賀源内、あとエジソンなどが凄いなと思ってましたね」

—なるほど。そういった発明とかが好きだったことですか？

「なんでですかねえ・・・(笑)。まあ理由は人を驚かせたり、喜ばせたりするのが好きってことだと思います」

岡山ではホームグラウンドらしい 勝負ができるように頑張る

—今度乗るラセッティについて何かイメー

ジしていることはありますか？

「FF(Front-engine Front-drive)ということ以外は特にはないですね。FFをこのところずっと乗っていますので、FFの方が思い切っていけるかなと」

—2年前はアコードでの参戦でした。2年前もシビックを乗られていたと思うのですが、シビックとアコードの違いを教えてください。

「ワンメイクのシビックは改造範囲が凄く狭いのですが、アコードはかなり足回りとかもダブルウィッシュボーン(ダブルウィッシュボーン式サスペンション)だったり、アンチノーズダイブ(アンチノーズダイブフォーク)だったり色々な先進テクノロジーが入っているんで、速いっていう感覚はありましたね」

—乗って楽しいのはどちらですか？

「どっちも楽しいですよ」

—ちなみにWTCCでライバルだと思っている選手は誰ですか？

「ライバルですか？ チームメイトのダリル・オーヤンが先日のインディペンデントで優勝しているので、色々勉強させてもらえればと思います」

—最後にWTCCの日本戦に向けて読者へのメッセージをお願いします。

「岡山の前に、ドイツ、スペインと2イベントに参戦しますので、その辺りである程度、車などの状況を掴み、日本ではできるだけホームグラウンドらしい勝負ができるように頑張りたいです」



©ADVAN

Yukinori Taniguchi

谷口 行規 Yukinori Taniguchi

1968年9月27日生まれ 広島県出身
身長 176cm / 体重 71kg

株式会社ユークスの代表取締役社長という肩書きを持つ異色のレーサー。レーシングドライバー山田英二の助手席に乗ったことを契機にモータースポーツに興味を持つ。2004年に鈴鹿クラブマンレース・FFチャレンジクラス第5戦で優勝。05年尾本直史・山田英二らとペアを組みスーパー耐久第4戦10勝24時間レース・クラス3で優勝。07年全日本スポーツカー耐久選手権参戦。08年にはN.テクノロジーよりジェームス・トンプソンのチームメイトとしてWTCCの第11戦オッサヤズレーベンと第12戦岡山に参戦した。



©WTCC

「サーキットの格闘技」と 表現されるのがWTCC

サーキットの格闘技と表現される世界ツーリングカー選手権(以下、WTCC)。ドライバーはテクニックも求められるが、気持ちがレースに大きく影響してくる異色のレースとして世界中のファンを魅了している。

現行のレース体制となったのは、2005年から今年で6シーズン目を迎えている。04年まで行われていたヨーロッパツーリングカー選手権(ETCC)を起源に、FIA世界選手権タイトルが付けられ、ルールやコースの見直しを施して現在のWTCCへと発展を遂げた。WTCCはF1、WRC(世界ラリー選手権)、今年から新たに加わったFIA-GTのGT1と並びFIA(国際自動車連盟)の管轄でモータースポーツの頂点に位置している。2010年は欧州を主戦場にブラジル、モロッコ、日本、マカオと世界11ヶ国で22レースが行われている。

10.30-31 WTCC岡山国際サーキット決戦!

10月30日、31日に岡山国際サーキット(岡山県)で開催されるFIA世界ツーリングカー選手権(WTCC)日本ラウンド。F1、WRCと並ぶモータースポーツの頂点に位置しているツーリングカーの世界選手権が日本へ上陸。今年で3年目を迎える岡山国際サーキットでの開催。来年からは鈴鹿サーキットでの開催となる。岡山ラストの今年はどうなるレースが展開されるのか!? WTCCの魅力と日本ラウンドへ向けた展望を紹介。

市販車をベースとしてマシンで バトルは展開

マシンは、FIA規定のスーパー2000で市販車をベースにしたツーリングカーで改造を厳しく制限された状態でサーキットを疾走。重量ハンデ制、限られた改造を施したマシン、レースのカギを握るタイヤは横浜ゴムのワンメイク供給と各マシンの性能差があまりなく、毎戦激しいダンゴ状態がレースを一層、盛り上げている。コースはサーキットだけでなく、マカオラウンドのように市街地でも展開されている。

レースは1戦あたり2レースで行われ、第1レースと第2レースではスタートの順位に大きな違いがあり、第1レースは30~40分ほどのスプリントレースによる予選のベストタイム順。第2レースは第1レースの上位8台のグリッドが逆転するリバースグリッドを組むシステムとなっている。またレースの距離が短いのも特徴で、1レース距離は僅か50km程度、1周の距離が長いコースでは10周以下のスプリントレースが展開される。少ない周回数で抜かなければならないため、凝縮された濃密なレー

スが見られる。そして第1レース終了後、第2レース開始時間までの短い時間でマシンのメンテナンスや修理作業を行なう。第2レースに向かうインターバルもWTCCを楽しむポイントだ。

今年で最後の岡山国際サーキットで どんなドラマが起こるか

今年第13、14ラウンド終了時点でポイント総合ランキングの首位は、イヴァン・ミュラー(シボレー・クルーズLT)。ブラジルの第1ラウンドを制し、今年のオープニングを飾り、現在4勝を挙げている。ポイント争いで2位に付けているのがガブリエ・タルクィーニ(セアト・レオン2.0TDI)で、ポイント差は5と接近している。そして上位2名と同じ今年4勝を挙げて3位にいるアンディ・プリオール(BMW 320si)は虎視眈々と首位の座を狙っている。新人王争いはフレディ・パース(セアト・レオン2.0TDI)がトップを走っている。

来年から鈴鹿サーキットへ移るWTCC日本ラウンド。最後の岡山国際サーキットで繰り広げられるドラマを見逃すな。

ラウンド【開催日】コース(開催国) 《優勝者》

Rd.01 & 02 [03/05-03/07]	クリティバ(ブラジル)
《Rd.01:イヴァン・ミュラー(シボレー・クルーズLT)》	
《Rd.02:ガブリエ・タルクィーニ(セアト・レオン 2.0 TDI)》	
=開催中止= [04/09-04/11]	エブラ・アモソク(メキシコ)
Rd.03 & 04 [04/30-05/02]	マラケシュ(モロッコ)
《Rd.03:ガブリエ・タルクィーニ(セアト・レオン 2.0 TDI)》	
《Rd.04:アンディ・プリオール(BMW 320si)》	
Rd.05 & 06 [05/21-05/23]	モンツァ(イタリア)
《Rd.05:アンディ・プリオール(BMW 320si)》	
《Rd.06:イヴァン・ミュラー(シボレー・クルーズLT)》	
Rd.07 & 08 [06/18-06/20]	ゾルダー(ベルギー)
《Rd.07:ガブリエ・タルクィーニ(セアト・レオン 2.0 TDI)》	
《Rd.08:アンディ・プリオール(BMW 320si)》	
Rd.09 & 10 [07/02-07/04]	アルガルヴェ(ポルトガル)
《Rd.09:ティアゴ・モンテイロ(セアト・レオン 2.0 TDI)》	
《Rd.10:ガブリエ・タルクィーニ(セアト・レオン 2.0 TDI)》	
Rd.11 & 12 [07/17-07/18]	フランスハッチ イギリス
《Rd.11:ガブリエ・タルクィーニ(セアト・レオン 2.0 TDI)》	
《Rd.12:イヴァン・ミュラー(シボレー・クルーズLT)》	
Rd.13 & 14 [07/31-08/01]	ブルノ(チェコ)
《Rd.13:ロブ・ハフ(シボレー・クルーズLT)》	
《Rd.14:アンディ・プリオール(BMW 320si)》	
Rd.15 & 16 [09/04-09/05]	オッサヤズレーベン(ドイツ)
Rd.17 & 18 [09/18-09/19]	ヴァレンシア(スペイン)
Rd.19 & 20 [10/29-10/31]	岡山国際(日本)
Rd.21 & 22 [11/19-11/21]	マカオ(マカオ=中国)

WTCC 2010 Japan Round Check it WTCC Driver!

闘志剥き出し、ハイレベルなテクニックで観ているファンを虜にしている注目ドライバーをピックアップ！
日本ラウンドでも彼ら戦士の戦い、走りに魅了されよう。



2009年WTCC王者 ガブリエレ・タルクイーニ (イタリア)

マシン:セアト・レオン 2.0 TDI
所属:セアト



多くのベテランドライバーが参戦している中で代表格に挙げられるのがガブリエレ・タルクイーニだ。元F1ドライバー。熱狂的なF1ファンにはよく知られる存在。1994年にツーリングカーへ移り、イギリス・ツーリングカー選手権 (BTCC) に参戦し、圧倒的な強さで優勝。2003年ヨーロッパ・ツーリングカー選手権 (ETCC) でチャンピオンタイトルを獲得。同選手権が05年にWTCCに変わったことで、06年にアルファロメオからセアトへ移籍。そして昨年、史上最年長の47歳でWTCCチャンピオンに輝いた。

シボレーワークスのチャンピオン請負人 イヴァン・ミュラー (フランス)

マシン:シボレー・クルーズLT
所属:シボレー



1990年代前半からツーリングカーに参戦しているベテランドライバー。94年にFIAツーリングカー・W杯に出場後、F3000から本格的にツーリングカーへ参戦。フランス、イタリア、ドイツの国内ツーリング選手権を渡り歩き、98年イギリス・ツーリングカー選手権 (BTCC) に参戦し、2003年に王者となる。06年からWTCC参戦、08年にはWTCCシリーズチャンピオンを獲得。ドライバーズランキングで現在、首位にいる (8月31日現在)。

WTCCスタードライバーで「BMWの顔」 アンディ・プリオール (イギリス)

マシン:BMW 320si
所属:BMW



2001年イギリスF3に参戦する傍らでイギリス・ツーリングカー選手権 (BTCC) にもスポット参戦。自らの活路を見出し、02年イギリス・ツーリングカー選手権 (BTCC) では3勝を挙げ、03年からはBMWでヨーロッパ・ツーリングカー選手権 (ETCC) に参戦。1年目でランキング3位をマーク。05年から3年連続でWTCCチャンピオンを飾り、WTCCの顔とも呼べるスタードライバーとして君臨している。

元F1ドライバーのプライドで戦う男 ティアゴ・モンテイロ (ポルトガル)

マシン:セアト・レオン 2.0 TDI
所属:セアト



かつて2005年、06年にF1ドライバーとしてトップレベルを経験。05年にジョーダンでアメリカGP3位、ポルトガル人初の表彰台を獲得。07年からWTCCに参戦し、08年のF1復帰を目指すも実現せず、引き続きWTCCへ参戦。08年第2戦のメキシコラウンドでの第2レースで初優勝を飾り、地元開催の第6戦のポルトガルラウンドでも第2レースで優勝。今年の第5戦ポルトガルラウンド第1レースでも再び母国で優勝を飾っている。今年はドライバーズランキングで5位に位置している (8月31日現在)。

WTCC岡山国際サーキット最後の決戦を見逃すな! WTCC 2010 Japan Round

《チケット購入は岡山国際サーキットまで》 HP: <http://www.okayama-international-circuit.jp/>

岡山国際サーキットアクセス

●自動車

■山陽自動車道

備前ICより約25km (車で約30分)

(吹田IC → 備前IC 約80分)

和気ICより約25km (車で約30分)

■中国自動車道

美作ICより約25km (車で約30分) (吹田IC → 美作IC 約80分)

作東ICより約10km (車で約20分)

※カーナビ設定を3ナンバーで設定しておけば細い道は避けられます (但し機種によって異なります)

●ハイウェイバス

[1] JRバス、神姫バス:大阪・新大阪(津山駅行き)→美作IC下車 (約2時間)

[2] 豊沢交通:美作IC(林野駅行き)→林野駅下車

[3] 宇野バス:林野駅(岡山駅・岡山バスセンター行き)→福本下車→タクシー (約20分)

●電車・バス

■山陽新幹線 JR岡山駅下車→宇野バス(湯郷温泉、林野駅行き)→福本下車 (約60分)→タクシー (約20分)

■山陽本線 JR吉永駅下車、車で約20分

●航空

■岡山空港より車で約60分

【お問合せ先】岡山国際サーキット 〒701-2612 岡山県美作市滝宮1210 (旧住所:英田郡英田町滝宮1210) TEL:0868-74-3311

KENWOOD

Listen to the Future

先進の機能搭載で快適なドライブを実現。

ハイスピードレスポンスと豊富なデータ容量のコンビネーションでスムーズな操作感が得られる、先進のナビゲーションシステム「アベニュー」誕生。



ワンセグチューナー内蔵 DVD/USB AVメモリーナビゲーションシステム

NEW MDV-313 11.1インチ オープン価格

Made for iPod iPhone

www.kenwood.co.jp

※iPod、iTunesは米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。※モニター画面はハメ込み合成です。※画面は改良のため、予告なく変更する場合があります。※撮影・印刷の条件で実際の色調と異なることがあります。※AVENUEは株式会社ケンウッドの登録商標です。※カーナビゲーションカタログを差し上げます。ハガキに郵便番号・住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地 第5ビル2階 JVCケンウッド・ホールディングス株式会社 宣伝MDV-SP係まで

JVCケンウッド・ホールディングス株式会社
www.kenwood.co.jp